

最澄が最初に構想した伽藍・法華総持院の一部をなしていたお堂。その建設は貞観四年（862）に文徳天皇の御願により始められた。円仁が入唐中に目にした長安（現在の西安）の青龍寺を模している。天台密教の根本道場として十数年の歳月をかけて完成された。

現在は東塔地域の中心をなし、南の灌頂堂、北の寂光堂とそれぞれ廻廊で結ばれている。創建時の建物は、1世紀にわたる戦国の世の終結と天下統一を目指した織田信長（1534～1582）による1571年の延暦寺焼き討ちの際に焼失した。

現在の阿弥陀堂は昭和十二年（1937）に比叡山開創1150年を記念して建てられた。延暦寺の中では唯一の供養の為のお堂である。本尊は丈六（約4.8メートル）の阿弥陀如来。浄土念仏修行が毎日ここで行われている。善行の功德を他に巡らせて、先祖はじめ縁の方々の御霊の安寧を祈る。春彼岸会（3月18日～3月24日）、盂蘭盆会（8月13日～8月16日）、秋彼岸会（9月20日～9月26日）などの法要もここで営まれている。